

ICTを巡る現状と課題

①社会ニーズに応える基礎的・革新的技術の研究開発の必要性

ICTの研究開発はイノベーション創出の原動力であり、その成果は、環境問題等の地球的規模の課題解決、豊かで安心・安全な健康長寿社会の実現、我が国の国際競争力強化・経済成長へ貢献。これらの社会ニーズに着実に応えることができる基礎的・革新的技術について、研究開発課題を重点化して推進することが必要。

②産学官連携による研究成果の社会還元やグローバル展開等の必要性

我が国のICT産業の国際競争力は必ずしも高くない状況を踏まえると、研究開発の推進にあたり、その成果の社会還元や国際展開の一層の促進が重要。このため、産学官の連携の下、成果還元意識の徹底、研究開発環境のグローバル化の推進に加え、ニーズを踏まえ適切に事業振興業務を実施することが必要。

情報通信研究機構の必要性と期待される役割

情報通信分野を専門とする我が国唯一の公的研究機関として、国際動向を踏まえつつ、国の情報通信政策との密接な連携の下、旧国研時代から培ってきた高度な研究開発能力や知的・技術的蓄積、その中立性・公共性を活かしつつ、大学や民間企業では実施できないような長期間にわたり組織的に推進すべき研究開発を推進するとともに、産学官連携及びグローバル展開の中核としての役割を果たすことが期待。

①社会的課題に応える研究開発の推進

CO2排出量の削減、医療や教育の充実・高度化などの社会的課題の解決に貢献する研究開発の推進。

②イノベーション創出を指向する研究開発の推進

現在の情報通信ネットワークの限界を克服する新世代のICTインフラ構築等のための革新的技術の研究開発の推進。

④産学官連携及びグローバル展開における中核的役割の強化

これまでの研究開発テストベッドネットワークの運用実績や、国際共同研究、研究者交流等の経験を活かし、ICT分野におけるオープン・イノベーションやグローバルな成果展開の促進のための中核的役割。

③中立的・公共的立場による知的共通基盤の整備・提供

国民の社会・経済活動を支える周波数標準値の設定、標準時の通報等の業務や、電波の人体への影響分析モデル、多言語翻訳用辞書データベースなどの知的共通基盤の整備・提供等の着実な実施。

組織・業務の見直しの基本方針

上記の期待に応えるため、真に求められる業務への重点化を図り、その効果を最大限発揮できるように体制の見直しを行うとともに、絶えざる業務組織運営の効率化に取り組む。

①業務の重点化

- 研究開発業務については、NICTの強みを活かすことで、社会的課題解決やイノベーション創出への貢献が期待されるテーマに重点化を図る。
- 研究支援業務・事業振興業務については、国の政策目的達成に必要なものに限定。

②体制の見直し

- NICTの強みを活かした研究開発推進のため、技術的親和性の高さを重視した研究開発体制に見直すとともに、分野横断的な成果創出の促進を図る。
- 将来の社会を支える情報通信基盤のグランドデザインを提示するとともに、その具現化を図る研究開発を、産学官でビジョンを共有して推進する機能を強化する。
- 研究成果の蓄積による知的財産や知的共通基盤等を産学官で有効活用するための機能強化を図る。
- テストベッド等の実証プラットフォームのより一層の有効活用を図るとともに、国際的な人財交流、共同研究等の強化を図る。

③効率的・効果的な業務組織運営

- 地方拠点・海外拠点については、効果的な地域連携、機動的な国際連携に必要な機能に重点化する。
- 人財の獲得・育成や、多方面で活躍できるキャリアの構築等を含めた総合的な人財育成戦略を検討する。
- 「随意契約等見直し計画」に基づき、競争性のない随意契約や一者応札・応募に関する点検・検証を継続的に行い、契約の一層の適正化を図る。
- 成果の社会還元の意識を高め、優れた成果創出に繋ぐことに主眼を置いた効果的な研究評価の実施を図る。
- 民間基盤技術促進業務、出資業務及び通信・放送承継業務に係る保有資産の評価を行い、不要資産を国庫返納する。
- 組織横断的なリスク管理を徹底し、職員のコンプライアンス意識の醸成等に取り組み、内部統制の強化を図る。